

LIFEBOOK

A530/AX

取扱説明書

このたびは弊社の製品をご購入いただき、誠にありがとうございます。

目次

マニュアルのご紹介	
本パソコンをお使いになる前に	3
1. 必ずお読みください	16
疲れにくい使い方	16
使用上のお願い	16
電源を入れる	19
セットアップ	20
電源を切る	24
2. 必要に応じてお読みください	26
BIOS の設定をご購入時の状態に戻す	26
ドライバーズディスクを作成する	26
リカバリデータディスクを作成する	28
リカバリ	31
リカバリを実行する	33
領域設定の変更	35
ハードディスクをご購入時の状態に戻す	37
OS を Windows 7 に変更する (Windows XP モデルの場合)	40
Windows Aero を有効にする (Windows 7 の場合)	42
廃棄・リサイクル	42
お問い合わせ先について	

マニュアルのご紹介

●添付の紙マニュアル

○はじめに添付品を確認してください

添付の機器、マニュアル、ディスクなどの一覧です。
ご購入後、すぐに添付品が揃っているか確認してください。欠品などがあつた場合は、できるだけ早くご購入元にご連絡ください。



○取扱説明書（本書）

使用上のご注意、パソコンを使うための準備、ご購入時の状態に戻す方法などを説明しています。



●インターネット上のマニュアル

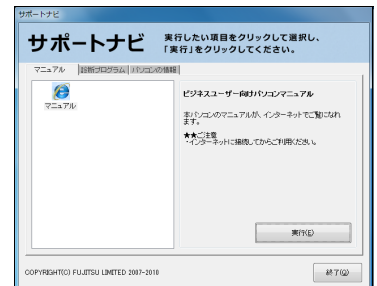
パソコンの使い方について説明したマニュアルが用意されています。



インターネット上のマニュアルは「サポートナビ」からご覧いただけます。

1. 画面上の「サポートナビ」アイコンをダブルクリックします。
2. 「サポートナビ」ウィンドウで「マニュアル」タブを選択します。
3. 「実行」をクリックします。

ブラウザが表示されるので、製品カテゴリーから「LIFEBOOK」を選択し、その後「シリーズ名」、「製品名」の順に選択してご覧ください。



POINT

- ▶ 次の操作でも、インターネット上のマニュアルをご覧いただけます。
 - ・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「LIFEBOOK マニュアル」の順にクリックする。
 - ・ブラウザのアドレスバーに URL (<http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/support/fmvmanual/>) を入力する。

目的にあわせてお読みください

(■：添付の紙マニュアル、□：インターネット上のマニュアル)

- ・箱の中身を確認する..... ■『はじめに添付品を確認してください』
- ・パソコンを使うための準備をする.... ■『取扱説明書』の「必ずお読みください」
- ・各部の名称や取り扱い方..... □『製品ガイド』の「各部名称」
- ・周辺機器の取り付け方法..... □『製品ガイド』の「周辺機器の設置／設定／増設」
- ・添付のソフトウェアについて..... □『製品ガイド』の「ソフトウェア」
- ・セキュリティ対策について..... □『製品ガイド』の「セキュリティ」
- ・パソコンのお手入れについて..... □『製品ガイド』の「お手入れ」
- ・トラブルの解決方法..... □『製品ガイド』の「トラブルシューティング」
- ・ドライバについて..... □『製品ガイド』の「ソフトウェア」
- ・仕様について..... □『製品ガイド』の「仕様一覧／技術情報」
- ・ご購入時の状態に戻す..... ■『取扱説明書』の「リカバリ」、「リカバリを実行する」、「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」

本パソコンをお使いになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」(→ P.8) をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

- ・保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- ・修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
- ・保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- ・保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください(詳しくは、保証書をご覧ください)。
- ・修理後は、本製品の内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、バックアップをとり、保管しておいてください。
- ・本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)の保有期間は、製造終了後5年です。

使用許諾契約書

富士通株式会社(以下弊社といいます)では、本製品にインストール、もしくは添付されているソフトウェア(以下本ソフトウェアといいます)をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。
なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本製品でのみ使用できます。なお、お客様は本製品のご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用(バックアップ)媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
(1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用(バックアップ)媒体以外には複製は行わないでください。
ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
(2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
お客様が本ソフトウェア(本製品に添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます)を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本製品に添付されている媒体を本製品とは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをとまなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 壁紙の使用条件
本製品に「FUJITSU」ロゴ入りの壁紙がインストールされている場合、お客様は、その壁紙を改変したり、第三者へ配布することはできません。
8. 保証の範囲
(1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本製品をご購入いただいた日から90日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥(破損等)等がある場合、本製品をご購入いただいた日から1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
(2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害(逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします)に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知られていた場合も同様とします。
(3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記(1)の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
9. ハイセイフティ
本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的な用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

記

原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ(基本ソフト、アプリケーションソフトも含む)の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。

データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いませんのでご了承ください。

添付のディスクなどは大切に保管してください

添付品は、お客様ご自身で大切に保管してください。

添付品を紛失された場合は、ご提供できないものもありますので、ご了承ください。

液晶ディスプレイの特性について

以下は、液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。
- ・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- ・長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- ・表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

なお、低輝度で長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になることがあります。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。

お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。

ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。

- ・原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

有寿命部品について

- ・本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品は、使用時間の経過に伴って摩耗、劣化などが進行し、動作が不安定になる場合がありますので、本製品をより長く安定してお使いいただくためには、一定の期間で交換が必要となります。
- ・有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境等により異なりますが、空調のある通常のオフィス環境において1日約8時間、1ヶ月で25日のご使用で約5年です。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。また、長時間連続使用など、ご使用状態によっては、この目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。
- ・本製品に使用しているアルミ電解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
- ・摩耗や劣化などにより有寿命部品を交換する場合は、保証期間内であっても有料となります。なお、有寿命部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
- ・本製品をより長く安定してお使いいただくために、省電力機能の使用をお勧めします。

<主な有寿命部品一覧>

液晶ディスプレイ、ハードディスクドライブ、フラッシュメモリディスク、CD/DVDドライブ、スマートカードホルダー
スマートカードスロット、スマートカードリーダー/ライター、キーボード、マウス、ACアダプタ、ファン

消耗品について

- ・バッテリーパックや乾電池などの消耗品は、その性能／機能を維持するために適時交換が必要となります。なお、交換する場合は、保証期間の内外を問わずお客様ご自身での新品購入ならびに交換となります。
- ・一般的にバッテリーパックは、300～500回の充放電で寿命となります。（温度条件や使用環境によって異なります。）

24 時間以上の連続使用について

- ・本製品は、24 時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっておりません。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的にしていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

本製品に接続する LAN ケーブルはシールドされたものでなければなりません。

本製品の使用環境は、温度 5 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（非動作時）です（ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

本製品は日本国内仕様であり、海外での保守サービスおよび技術サポートは行っておりません。

無線 LAN (IEEE 802.11a 準拠、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠) 搭載の場合

2.4 DS/OF 4

- ・ 上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式として DSSS 変調方式および OFDM 変調方式を採用しており、与干渉距離は 40m です。
- ・ 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
 - (1) 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
 - (2) 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
 - (3) その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」
- ・ 本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
- ・ パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、IEEE 802.11a 準拠では見通し半径 15m 以内、IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠では見通し半径 25m 以内、IEEE 802.11n 準拠では見通し半径 50m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
- ・ IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠の無線 LAN の混在環境においては、IEEE 802.11g 準拠は IEEE 802.11b 準拠との互換性をとるため、IEEE 802.11g 準拠本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 準拠本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠を別のネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上あけてお使いください。
- ・ 本製品に内蔵の無線 LAN を 5.2/5.3GHz 帯でご使用になる場合、電波法の定めにより屋外ではご利用になれません。
- ・ 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

本製品には、「外国為替及び外国貿易法」に基づく特定貨物が含まれています。したがって、本製品を輸出する場合には、同法に基づく許可が必要となる場合があります。

本パソコンは電気・電子機器の特定の化学物質＜鉛、六価クロム、水銀、カドミウム、ポリブロモビフェニル、ポリブロモジフェニルエーテルの6物質＞の含有表示を規定するJIS規格「J-Moss」において、化学物質の含有率が基準値以下であることを示す「グリーンマーク（非含有マーク）」に対応しています。本パソコンにおける特定の化学物質（6物質）の詳細含有情報は、下記URLをご覧ください。
<http://www.fmwORLD.net/biz/fmv/jmoss/>

本製品の構成部品（プリント基板、CD/DVD ドライブ、ハードディスク、液晶ディスプレイなど）には、微量の重金属（鉛、クロム、水銀）や化学物質（アンチモン、シアン）が含有されています。

本製品は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。また、バッテリー残量が不十分な場合、バッテリー未搭載で AC アダプタを使用している場合は、規定の耐力がないため不都合が生じることがあります。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

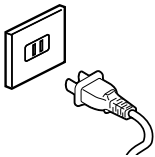


本書の表記

本書の内容は 2010 年 3 月現在のものです。お問い合わせ先や URL などが変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」へお問い合わせください（→「お問い合わせ先について」）。

■電源プラグとコンセント形状の表記について

本パソコンに添付されている電源ケーブルの電源プラグは「平行 2 極プラグ」です。本書では「電源プラグ」と表記しています。
接続先のコンセントには「平行 2 極プラグ（125V15A）用コンセント」をご利用ください。本書では「コンセント」と表記しています。



■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

- 例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど
また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。
例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。
例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作
↓
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■画面例およびイラストについて

本文中の画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■本書に記載している仕様とお使いの機種との相違について

本文中の説明は、標準仕様に基づいて記載しています。
バリューシリーズの場合は、本文中の説明がお使いの機種の仕様と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
なお、本文内において、機種やOS別の書き分けがある箇所については、お使いの機種の情報をお読みください。

■製品の呼び方

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記	
A530/AX	バリューシリーズ	本パソコン／パソコン本体
Windows [®] 7 Professional	Windows 7	Windows
Windows [®] XP Professional	Windows XP	
InterVideo WinDVD [®] for FUJITSU	WinDVD	
「InterVideo WinDVD [®] for FUJITSU」 ディスク	WinDVD ディスク	
Norton AntiVirus [™] 2010	Norton AntiVirus	
Roxio Creator LJ	Roxio Creator	

■モデルの表記

本文中では、OS 名を次のように表記します。

OS	本文中の表記
Windows [®] 7 Professional 正規版	Windows 7 モデル
Windows [®] XP Professional (Windows [®] 7 Professional 正規版 ダウングレード) モデル	Windows XP モデル

危険ラベル／警告ラベル／注意ラベル

本製品には危険・警告・注意ラベルが貼ってあります。

これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Aero は、米国 Microsoft Corporation および / またはその関連会社の商標です。

FeliCa は、ソニー株式会社の登録商標です。

FeliCa は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カードの技術方式です。

ExpressCard[™]、ExpressCard[™] ロゴは、Personal Computer Memory Card International Association(PCMCIA) の商標で、富士通へライセンスされています。

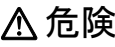
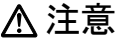
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2010

警告表示について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあり、その切迫の度合いが高いことを示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

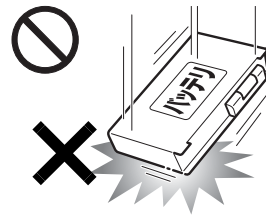
	△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

安全上のご注意

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取扱ってください。また、本製品をお使いになるときは、マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

■バッテリーパック

危険



バッテリーパックには次のことをしないでください。

破裂・液漏れ・火災・けが・周囲を汚す原因となります。

・指定された充電方法以外で充電する

- ・分解や改造
- ・加熱したり、火の中に入れたりする
- ・熱器具に近づける
- ・火のそばや炎天下などで充電したり、放置したりする
- ・落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えたりする
- ・先のとがったもので力を加える、強い圧力加える
- ・ショートさせる
- ・端子部分を濡らしたり、水の中に入れたりする
- ・金属製のネックレスやヘアピンなどいっしょに携帯、保管する

特に、バッテリーパックは、落下などの衝撃による内部の電池や回路基板の損傷によって、発熱、発火、破裂に至ることがあります。

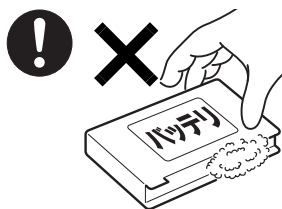
バッテリーパックに衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には、使用をやめてください。



必ず本製品に添付のバッテリーパックを使用してください。寿命などでバッテリーパックを交換する場合は、必ず指定品を使用してください。

指定以外のバッテリーパックは、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。

⚠ 警告



バッテリーパックが液漏れし、漏れ出た液が万一、目や口に入ったときは、こすらず水道水などの多量のきれいな水で十分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。

失明など障害の原因となります。

液が皮膚や衣類に付着したときは、ただちに水でよく洗い流してください。

皮膚に障害を起こす原因となります。

⚠ 注意



バッテリー稼働時間が短くなった場合には、純正の新しいバッテリーパックと交換してください。

バッテリーパックは消耗品です。稼働時間が短くなったバッテリーパックでは、内部に使用されている電池の消耗度合いにバラツキが発生している可能性があり、そのまま使用し続けると、障害が発生することがあります。



バッテリーパックの廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

バッテリーパックはリチウムイオン電池を使用しており、一般のゴミといっしょに火中に投げられると破裂のおそれがあります。

■パソコン本体、AC アダプタ

⚠ 警告



本製品を火中に投入、加熱、あるいは端子をショートさせないでください。

発煙・発火・破裂の原因になります。



本製品から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッ

テリパックを装着している場合は、バッテリーパックも取り外してください。

その後、異常な現象がなくなるのを確認して、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。

異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。



パソコン本体の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリーパックを装着している場合は、バッテリーパックも取り外してください。

その後、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

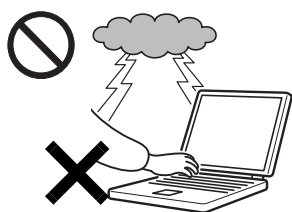


本製品を落としたり、カバーなどを破損したりした場合は、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリーパックを装着している場合は、バッテ

リパックも取り外してください。

その後、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。



雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による感電、火災の原因となります。



各スロットやディスクトレイなどの開口部から、本製品の内部に金属物や紙などの燃えやすいものを差し込んだり、入れたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



本製品をお客様ご自身で修理・分解・改造しないでください。

感電・火災の原因となります。

修理や点検などが必要な場

合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

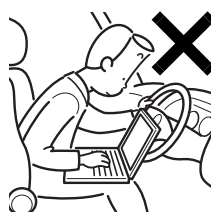


本装置を持ち上げたり運んだりする場合、液晶ディスプレイや液晶ディスプレイの枠部分を持って、装置を持ち上げたり運んだりしないでください。

装置の故障やけがの原因となることがあります。持ち上げたり運んだりするときは、装置の底面あるいは装置中央の両脇を持ってください。



梱包に使用している袋類は、お子様の手の届く所に置かないでください。口に入れたり、頭にかぶったりすると、窒息の原因となります。



自動車などを運転中に本製品を使用しないでください。

安全走行を損ない、事故の原因となります。車を安全な所に止めてからお使いください。



取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手が届かない所に置いてください。

誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。



メモリ（拡張 RAM モジュール）の取り付け／取り外しのために、カバーを外す場合は、お子様の手が届かない場所で行ってください。また、

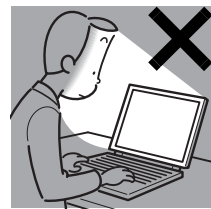
作業が終わるまでは大人が本製品から離れないようにしてください。

お子様が手を触れると、本体および本体内部の突起物でけがをすることがあります。また、故障の原因となります。



パソコン本体やACアダプタの温度が高くなる場所に長時間直接触れて使用しないでください。また、お子様が排気孔付近に近寄らないよう注意してください。

低温やけどの原因になります。



本製品をご使用になる場合には、部屋を明るくして、画面からできるだけ離れてください。

お使いになる方の体質や体調によっては、強い光の

刺激を受けたり、点滅の繰り返しによって一時的な筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こしたりする場合がありますので、ご注意ください。

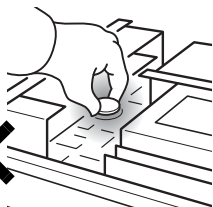
過去にこのような症状を起こしたことがある場合は、事前に医師に相談してください。

また、本製品をご使用中にこのような症状を発症した場合には、すぐに本製品の使用を中止し、医師の診断を受けてください。



パソコンやパソコン台にぶら下がったり、上に載ったり、寄りかかったりしないでください。

パソコンが落ちたり、倒れたりして、けがや故障の原因となります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



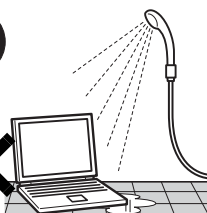
本パソコンの内部に搭載されているリチウム電池には触らないでください。取り扱いを誤ると、人体に影響を及ぼすおそれがあります。

リチウム電池はご自身で交換せずに、「富士通ハードウェア修理相談センター」にご相談ください。



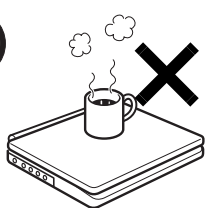
本製品を風通しの悪い場所、火気のある場所、引火性ガスの発生する場所で使用したり、置いたりしないでください。

火災の原因となります。

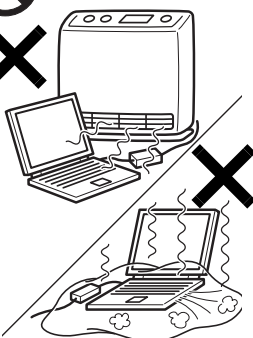


本製品を風呂場やシャワー室など、水のかかるおそれのある場所で使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となります。



本製品の上や周りに、花びん・コップなど液体の入ったものを置かないでください。水などの液体が本製品の内部に入って、感電・火災の原因となります。



使用中のパソコン本体やACアダプタは、ふとんなどをかけたり、暖房器具の近くやホットカーペットの上に置いたりしないでください。また、排気孔などの開口部がある場合はふさがないでください。

内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



パソコン台を使う場合は、パソコンが台からはみ出したり、片寄ったりしないように載せてください。

パソコンが落ちたり、倒れたりして、けがや故障の原因となります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用AC電源など）に接続しないでください。火災の原因となることがあります。



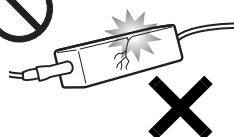
パソコン本体や周辺機器のケーブル類の配線にご注意ください。

ケーブルに足を引っかけて転倒したり、パソコン本体や周辺機器が落ちたり、倒れたりして、けがや故障の原因となります。また、お子様が容易にケーブルに触れないようにしてください。誤って首に巻きつくと窒息の原因となります。



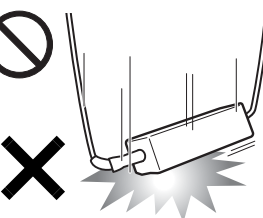
添付もしくは指定された以外の AC アダプタや電源コードを本製品に使ったり、本製品に添付の AC アダプタや電源コードを他の製品に使ったりしないでください。

感電・火災の原因となります。



ACアダプタ本体や、ケーブルが変形したり、割れたり、傷ついている場合は使用しないでください。

感電・火災の原因となります。



ACアダプタ本体を落下させたり、強い衝撃をあたえたりしないでください。

カバーが割れたり、変形したり、内部の基板が壊れ、故障・感電・火災の原因となります。

修理は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。



清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。

故障・火災の原因となります。

⚠ 注意



本製品の上に重いものを置かないでください。
故障・けがの原因となることがあります。



本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となることがあります。



本製品を直射日光が当たる場所、閉めきった自動車内など、温度が高くなる所で使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因となることがあります。



排気孔付近に触れないでください。また、排気孔からの送風に長時間あたらしないでください。
やけどの原因となることがあります。



振動している場所や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。

本製品が落ちて、けがの原因となります。



本製品をお使いになる場合は、次のことに注意し、長時間使い続けるときは1時間に10～15分の休憩時間や休憩時間の間の小休止をとるようにしてください。

本製品を長時間使い続けると、目の疲れや首・肩・腰の痛みなどを感じる原因となることがあります。画面を長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」などの目の健康障害の原因となることがあります。

- ・画面の位置や角度、明るさなどを見やすいように調節する。
- ・なるべく画面を下向きに見るように調整し、意識的にまばたきをする。場合によっては目薬をさす。
- ・背もたれのあるいすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
- ・いすの高さを、足の裏全体が付く高さに調節する。
- ・手首や腕、ひじは机やいすのひじかけなどで支えるようにする。
- ・キーボードやマウスは、ひじの角度が 90 度以上になるように使用する。



本製品の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

本製品はリチウム電池を使用しており、一般のゴミといっしょに火中に投げられると破裂のおそれがあります。



液晶ディスプレイを開閉するとき、手などをはさまないよう注意してください。

けがや故障の原因となります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



CD/DVD、PC カードなどのトレイやスロット、モデムや LAN のコネクタなど、本製品の開口部に、手や指を入れないでください。

けが・感電の原因となることがあります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。



キーボードのキートップが外れた状態のまま使用しないでください。

内部の突起物でけがをすることがあります。また、故障の原因となります。特に、小さいお子様が近くにいる場合はご注意ください。



本製品を移動する場合は、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続されたケーブルなども外してください。

作業は足元に充分注意して行ってください。

ACアダプタの電源コードが傷つき、感電・火災の原因となることがあります。また、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



本製品を長期間使用しないときは、安全のためACアダプタの電源プラグをコンセントから抜き、パソコン本体からACアダプタを取り外してください。バッテリーパックを取り外せる場合は、バッテリーパックも取り外してください。

火災の原因となることがあります。



液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で15分以上洗浄してください。また、目に入った場合は、

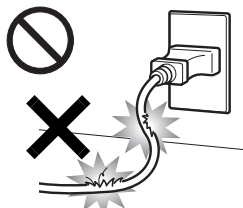
流水で15分以上洗浄した後、医師に相談してください。

中毒のおそれがあります。

液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。

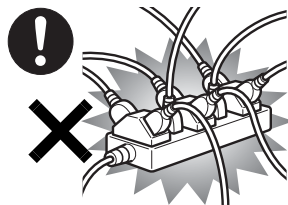
■電源コード

⚠ 警告



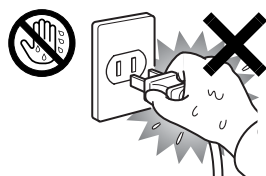
電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないでください。

火災・感電の原因となります。



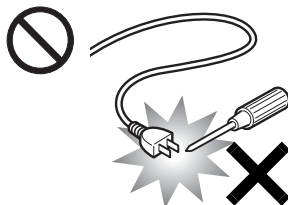
ACアダプタの電源プラグは、壁のコンセント（AC100V）に直接かつ確実に差し込んでください。また、タコ足配線をしないでください。

感電・火災の原因となります。

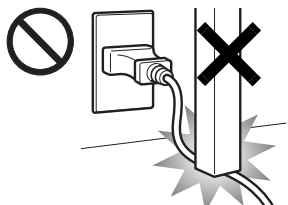


濡れた手でACアダプタの電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の原因となります。

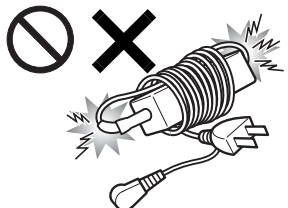


ACアダプタの電源プラグに、ドライバーなどの金属を近づけないでください。火災・感電の原因となります。



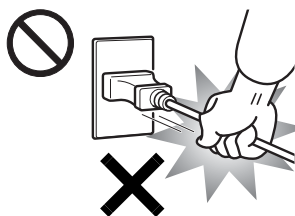
ACアダプタのケーブルは、傷つけたり、加工したり、加熱したり、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。

感電・火災の原因となります。



ACアダプタ本体に電源コードをきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。

電源コードの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となります。



ACアダプタの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。

電源コードや電源プラグが傷つき、感電・火災の原因となります。

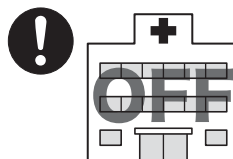


ACアダプタや電源プラグはコンセントからときどき抜いて、コンセントとの接続部分およびACアダプタと電源コードの接続部分などのほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。

ほこりがたまったままの状態で使用すると感電・火災の原因となります。1年に一度は点検清掃してください。

■無線について

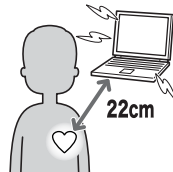
⚠ 警告



無線LAN、FeliCaポートの注意（搭載機種のみ）

次の場所では、パソコン本体の電源を切るなどして、無線通信機能を停止してください。無線機器からの電波により、誤動作による事故の原因となります。

・病院内や医療用電子機器のある場所



特に手術室、集中治療室、

CCU（冠状動脈疾患監視病室）などには持ち込まないでください。

- ・航空機内など無線通信機能の使用を禁止されている場所
- ・自動ドア・火災報知機など自動制御機器の近く
- ・満員電車の中など付近に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性がある場所

心臓ペースメーカーの装着部位からは22cm（FeliCaポートは12cm）以上離してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を及ぼす原因となります。

■ヘッドホン

⚠ 注意



ヘッドホン・イヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

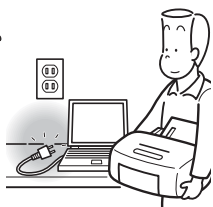


電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホン・イヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。

突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

■周辺機器

⚠ 警告



本製品の設置や、周辺機器の取り付け／取り外しを行うときは、本製品や周辺機器の電源を切った状態で行ってください。

ACアダプタや電源コードがコンセントにつながってい

る場合は、それらをコンセントから抜いてください。

感電の原因となります。



周辺機器のケーブルは、本製品や周辺機器のマニュアルをよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となります。

⚠ 注意



PCカードやExpressCardなどの使用終了直後は、PCカードやExpressCardなどが高温になっていることがあります。

PCカードやExpressCardなどを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。

やけどの原因となることがあります。



光学式マウスの底面の光を直接見ないでください。(添付機種のみ)

目の痛みなど、視力障害を起こすおそれがあります。



電話回線ケーブル（モジュラーケーブル）の取り外しや接続を行うときは、モジュラーコンセントの端子部分に触れないでください。(モデム搭載機種のみ)

電話がかかってくると電話回線上に電圧がかかるため、電話回線ケーブルを抜いたときにモジュラーコンセントの端子に触れると感電のおそれがあります。



メモリ（拡張RAMモジュール）の取り付け／取り外しを行うときは、指をはさんだり、ぶつけないように注意してください。

けがの原因になります。



パソコン本体の電源が入っているときや、ACアダプタやバッテリーパックが装着されているときは、メモリ（拡張RAMモジュール）のカバーを外さないでください。

感電の原因になります。

■ レーザの安全性について

(CD/DVDドライブ搭載機種のみ)

□ CD/DVDドライブの注意

本製品に搭載されている CD/DVD ドライブは、レーザを使用しています。

クラス 1 レーザ製品

CD/DVDドライブは、クラス1レーザ製品について規定している米国の保健福祉省連邦規則 (DHHS 21 CFR) Subchapter J に準拠しています。

また、クラス1レーザ製品の国際規格である (IEC 60825-1)、CENELEC 規格 (EN 60825-1) および、JIS 規格 (JISC6802) に準拠しています。

警告



本製品は、レーザ光線を装置カバーで遮断する安全な構造になっていますが、次のことにご注意ください。

- ・ 光源部を見ないでください。

CD/DVDドライブのレーザ光の光源部を直接見ないでください。

また、万一の故障で装置カバーが破損してレーザ光線が装置外にもれた場合は、レーザ光線をのぞきこまないでください。

レーザ光線が直接目に照射されると、視力障害の原因となります。

- ・ お客様自身で分解したり、修理・改造したりしないでください。

レーザ光線が装置外にもれて目に照射されると、視力障害の原因となります。

□ レーザマウスについて

(レーザマウス添付機種のみ)

クラス 1 レーザ製品

IEC 60825-1:2001

クラス 1 レーザ製品の国際規格である (IEC 60825-1) に準拠しています。

警告



マウス底面から、目に見えないレーザ光が出ています。クラス 1 レーザ製品は、予測可能な使用環境において極めて安全ですが、レーザ光を

長時間、直接目に向けることは、できるだけ避けてください。

1. 必ずお読みください

疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続けていると、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いになるときは姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。



ディスプレイ

- 直射日光が当たらない場所や、外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしない場所に設置し、画面の向きや角度を調整しましょう。
- 画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調整しましょう。
- ディスプレイの上端が目と位置と同じかやや低くなるようにしましょう。
- ディスプレイの画面は、顔の正面にくるように角度を調整しましょう。
- 目と画面の距離は、40cm 以上離すようにしましょう。

使用時間

1 時間以上続けて作業しないようにしましょう。続けて作業をする場合には、1 時間に 10 ～ 15 分程度の休憩時間を取りましょう。また、休憩時間までの間に 1 ～ 2 分程度の小休止を 1 ～ 2 回取り入れましょう。

入力機器

キーボードやマウスは、ひじの角度が 90 度以上になるようにして使い、手首やひじは机、いすのひじかけなどで支えるようにしましょう。

机といす

高さが調節できる机やいすを使いましょう。調節できない場合は、次のように工夫しましょう。

- 机が高すぎる場合は、いすを高く調節しましょう。
- いすが高すぎる場合は、足置き台を使用し、低すぎる場合は、座面にクッションを敷きましょう。
- いすは、背もたれ、ひじかけ付きを使用しましょう。

作業スペース

机上のパソコンの配置スペースと作業領域は、充分確保しましょう。

スペースが狭く、腕の置き場がない場合は、いすのひじかけなどを利用して腕を支えましょう。

使用上のお願い

使用および設置に適した場所

- 机の上など平らで安定した場所
- パソコンの周辺に、操作に十分なスペースが取れる場所
- パソコン本体の周囲に10cm以上のすき間を空けられる場所
- コンセントから直接電源をとれる場所
- 有線 LAN でインターネットに接続するときは、接続ケーブルが届く場所

使用および設置に適さない場所

- 極端に高温または低温になる場所
- 結露する場所
- 直射日光の当たる場所
- 衝撃や振動の加わる場所
- 磁気を発生するものの近く
- ほこりの多い場所
- 水など液体のかかる場所
- 湿度の高い場所
- 安定の悪い場所
- パソコン本体が傾いた状態になる場所
- 発熱器具の近くや、腐食性のガスなどが発生する場所
- 無線通信機能を搭載している機種の場合、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所

POINT

- ▶ 本パソコンの使用環境は、温度 5 ～ 35℃/湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 -10 ～ 60℃/湿度 20 ～ 80%RH（非動作時）です。
- ▶ 結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。温度の低い場所（クーラーの効いた場所、寒い屋外など）から、温度の高い場所（暖かい室内、炎天下の屋外など）へ移動したときに起こります。結露が発生すると故障の原因となりますので、ご注意ください。
- ▶ 本パソコンのそばで喫煙をすると、タバコのヤニや煙がパソコン内部に入り、CPU ファンなどの機能を低下させる可能性がありますので、ご注意ください。

パソコン本体取り扱い上の注意

- 衝撃や振動を与えないでください。
- パソコン本体に必要以上の力を加えたり、操作に必要な部分を押したりしないでください。誤動作の原因となることがあります。
- インターネット上のマニュアル『製品ガイド』に記載されているところ以外は絶対に開けないでください。
- 吸気孔、排気孔はふさがないようにください。パソコン内部に熱がこもり、故障の原因となります。
- 排気孔の近くにものを置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれたものが熱くなることがあります。
- 排気孔からは熱風が出ています。排気孔付近には手を触れないでください。
- パソコンをお使いになると熱く感じるがありますが、これは故障ではありません。
- パソコン本体内部からは、パソコン本体内部の熱を外に逃がすためのファンの音や、ハードディスクドライブがデータを書き込む音、CD/DVD が回転する音、CD/DVD ドライブのディスク読み取りヘッドが移動する音などが聞こえることがあります。これらは故障ではありません。
- 磁石や磁気ブレスレットなど、磁気の発生するものをパソコン本体や画面に近づけないでください。画面が表示されなくなるなどの故障の原因となったり、保存しているデータが消えてしまったりするおそれがあります。
- ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。使用中、本パソコンの底面が熱くなり、低温やけどを起こす可能性があります。
- 使用するソフトウェアによっては、パームレスト部（手を載せる部分）が多少熱く感じられることがあります。長時間使用する場合には低温やけどを起こす可能性がありますので、ご注意ください。
- 周辺機器は、弊社純正品をお使いください。

- パソコン本体には静電気に弱い部品が使用されていますので、静電気の発生しやすい場所では使用しないでください。また、使用する前には金属質のものに触れて、静電気を逃がしてください。
- 液晶ディスプレイは次のような点に注意して取り扱いください。
 - ・ 液晶ディスプレイを開いたり閉じたりするときは、ゆっくりと衝撃を与えないようにしてください。
 - ・ 液晶ディスプレイを開くときは、無理に大きく開けないでください。
 - ・ 液晶ディスプレイをたたいたり強く押したりしないでください。
- 液晶ディスプレイを開いたまま、パソコン本体を裏返して置かないでください。
- パソコン本体を立てたり傾けたりして置かないでください。パソコン本体が倒れて、故障の原因となることがあります。
- 無線 LAN を搭載している機種の場合
無線 LAN 機器が発信する電波は、携帯電話の電波と同じように電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では、無線 LAN 機能を停止してください。
 - ・ 病院内、航空機内
 - ・ 自動ドアや火災報知器の近く
 - ・ その他、使用規制のある場所など

放熱について

- パソコン本体および AC アダプタは堅い机の上などに置くようにしてください。ふとんの上など熱がこもりやすい場所に置くと、パソコンや AC アダプタ表面が高温になることがあります。
- パソコン本体および AC アダプタは、使用中に熱をもつことがあります。そのため、長時間同じ場所に設置すると、設置する場所の状況や材質によっては、その場所の材質が変質したり劣化したりすることがあります。ご注意ください。
- 電源が入っているときは、キーボードの上に書類などのおおいかぶさるものを置かないでください。パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- ほこりの多い環境では使用しないでください。ファンにほこりが詰まり、放熱が妨げられ、故障の原因となる場合があります。
- 吸気孔の表面にほこりがたまっている場合には取り除いてください。
- 電源が入っているときに液晶ディスプレイを閉じてもスリープ、スタンバイしない設定にした場合は、パソコンの液晶ディスプレイを閉じないでください。パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因となります。

- 台所などの油を使用する場所の近くでは、パソコンを使わないでください。油分がパソコン内部に入ってCPUファンなどに付着し、放熱性能を低下させる可能性があります。

落雷のおそれがあるときの注意

落雷の可能性がある場合は、パソコンの電源を切るだけでなく、すべてのケーブル類を抜いておくことをお勧めします。また、雷が鳴り出したら、パソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。

安全のため、避雷器の設置をお勧めします。

落雷には、直撃雷と誘導雷の2種類ありますが、パソコンの故障は主に誘導雷によって起こります。雷により周囲に強力な電磁場ができると発生し、電線や電話線などから侵入するのが誘導雷です。パソコンの場合、電源ケーブル、外部機器との接続ケーブル、電話線（モジュラーケーブル）、LAN ケーブルなどからの誘導雷の侵入が考えられます。誘導雷を防ぐにはケーブル類を抜くなどの対策が必要です。

直撃雷は避雷針によって雷を誘導して対象物を保護できますが、避雷器の許容値を超えた非常に大きな雷を受けた場合には、避雷器を用いても本パソコンを保護できないことがあります。

場合によっては、パソコン本体だけでなく、周辺機器などが故障することもあります。落雷によるパソコン本体の故障は、保証期間内でも有償修理となります。故障の状況によっては、修理費用が高額になることもあるので、ご注意ください。

パソコンを持ち運ぶときは

- 電源が入った状態（スリープ、スタンバイ中も含む）で持ち運ばないでください。また、パソコンの電源を切った後は、5 秒以上待ってから持ち運んでください。電源を切った後もハードディスクはしばらく動作しています。そのときに衝撃が加わるとハードディスクが故障する原因となります。
- 接続しているケーブルなどをすべて取り外してください。接続したまま持ち運ぶとケーブル、パソコン本体のコネクタを破損するおそれがあります。
- PC カード、ExpressCard または SD メモリーカードなどのスロットを搭載している機種で、スロットにカードをセットしている場合、必ず PC カード、ExpressCard または SD メモリーカードなどを取り外してください。
PC カード、ExpressCard または SD メモリーカードなどを取り付けたまま持ち運ぶと、パソコンやPCカード、Express-Card または SD メモリーカードなどを破損するおそれがあります。
- 液晶ディスプレイを閉じてください。
- パソコン本体を持ち上げたり移動させたりするときは、両手で掴んでください。

- パソコンをかばんの中などに入れて携帯する場合は、パソコン本体の背面を下側にして、かばんなどに入れてください。

液晶ディスプレイが回転する機種の場合、タブレットモードではなく、液晶ディスプレイを内側にして閉じた状態にしてください。

- パソコン本体や AC アダプタを運ぶ場合は、ぶつけたり落としたりしないでください。かばんなどに入れて衝撃や振動から保護してください。
- パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証していません。
- ワイヤレススイッチのある機種では、意図せずスイッチが切り替わってしまうおそれがあります。ご注意ください。

液晶ディスプレイのお手入れ

- 液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。
液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 液晶部分を拭くときは、必ずから拭きをしてください。
水や中性洗剤を使うと、液晶部分を傷めるおそれがあります。
- 化学ぞうきんや市販クリーナーは次の成分を含んだものがあり、画面の表面コーティングを傷つける場合がありますので、ご使用を避けてください。
 - ・ アルカリ性成分を含んだもの
 - ・ 界面活性剤を含んだもの
 - ・ アルコール成分を含んだもの
 - ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・ 研磨剤を含むもの

パスワードの取り扱いについて

- BIOS のパスワードや Windows のパスワードを設定するときは、設定したパスワードを忘れないよう注意してください。特に BIOS パスワードを忘れると、パソコンが使えなくなり修理が必要となります。

電源を入れる

注意事項

- ご購入後、初めて電源を入れる場合は、周辺機器の取り付けなどは行わないでください。
- 電源を入れてから、持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。再度電源を入れる場合は、10 秒以上待ってから電源を入れてください。
- パソコンを長時間お使いになる場合は、バッテリー切れによるデータ消失などを防ぐため、必ず AC アダプタを取り付けてください。
- 電源を入れても画面に何も表示されないときは、次のことを確認してください。

- ・電源ランプが点灯している

キーボードを押すかポインティングデバイスに触れてください。また、【Fn】+【F7】キーを押して、明るさを調整してください。

- ・電源ランプが点滅している

電源ボタンを押して動作状態にしてください。

- ・電源ランプが消灯している

もう一度電源ボタンを押してください。

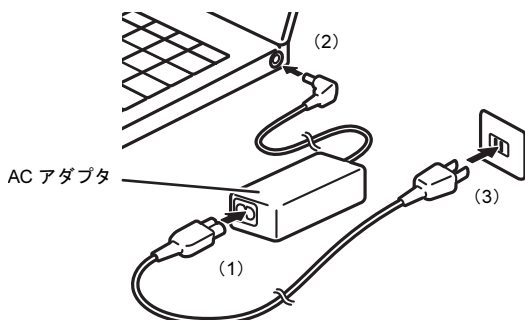
また、バッテリー運用している場合は、状態表示 LED のバッテリー充電/残量ランプを確認してください。本パソコンご購入時やバッテリーが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してください。

バッテリー充電/残量ランプについては、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「各部名称」－「状態表示 LED」をご覧ください。

電源の入れ方

1 AC アダプタを接続します。

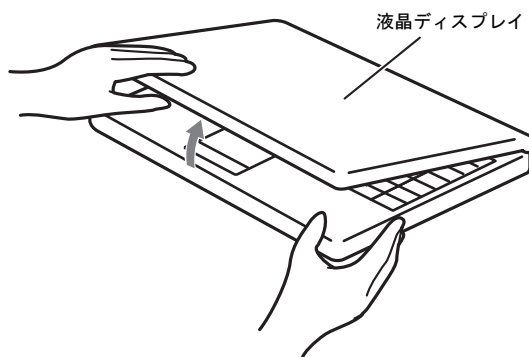
(1) AC アダプタに AC ケーブルを接続し、(2) パソコン本体の DC-IN コネクタに接続します。(3) その後、プラグをコンセントに接続します。



(イラストは機種や状況により異なります)

2 液晶ディスプレイを開きます。

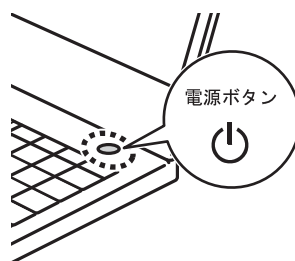
液晶ディスプレイに手を添えて持ち上げます。



(イラストは機種や状況により異なります)

3 電源ボタンを押します。

パソコン本体に電源が入り、自己診断 (POST) が始まります。また、電源ランプなどが点灯します。



(イラストは機種や状況により異なります)

ご購入後、初めて電源を入れると、Windows のセットアップ画面が表示されます。その場合は、「セットアップ」(→ P.20) をご覧になり、操作を続けてください。

POINT

- ▶ POST とは、Power On Self Test (パワーオンセルフテスト) の略で、パソコン内部に異常がないか調べる自己診断です。本パソコンの電源が入ると自動的に行われ、自己診断終了後に Windows が起動します。自己診断 (POST) 中は、電源を切らないでください。自己診断 (POST) の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージについては、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

セットアップ

Windows セットアップについて説明します。セットアップは、初めて電源を入れた後、また、リカバリ後に行います。必ず、本書の手順に従って操作してください。

次の「注意事項」をよくお読みになり、電源を入れて Windows セットアップを始めます。

注意事項

- Windows セットアップを行う前は、次の点にご注意ください。
 - ・ 周辺機器を取り付けしないでください。
 - ・ LAN ケーブルを接続しないでください。



Windows セットアップが正常に行われなかったり、エラーメッセージが表示されたりする場合があります。上記の項目は、セットアップで「必ず実行してください」を実行してから、行ってください。

- セットアップ中は、電源を切らないでください。
- 初めて電源を入れるときには、必ず AC アダプタを取り付けてください。また、次のようなメッセージが表示された場合、AC アダプタが正しく接続されているか確かめてください。

「初めて電源を入れるときには、必ず AC アダプタを取り付けて下さい。AC アダプタを接続すると継続します。AC アダプタを取り付けていないと、Windows のセットアップ中にバッテリーの残量がなくなり、Windows のセットアップに失敗することがあります。」
- Windows セットアップの各ウィンドウが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windows セットアップが完全に行われな場合があります。ウィンドウが完全に表示されたから、キーボードまたはポインティングデバイスで操作してください。

■セットアップで困ったときは

セットアップ中に動かなくなったなど、困ったことがあったときには、次の項目をご覧ください。

□Windows セットアップが進められなくなった

電源ボタンを4秒以上押して、本パソコンの電源を一度切り、セットアップをやり直してください。

セットアップがやり直せない場合は、リカバリを行ってください。リカバリについては、「リカバリ」(→ P.31) をご覧ください。

□画面が見にくい

- 液晶ディスプレイの角度を見やすい位置に調節します。
- 次のキーを何度か押して輝度を調節します。
 - 【Fn】 + 【F6】 キーを押すと、表示が暗くなります。
 - 【Fn】 + 【F7】 キーを押すと、表示が明るくなります。

■次の手順に従ってセットアップする

□Windows 7 の場合

「Windows 7 セットアップ」(→ P.20) に進んでください。

□Windows XP の場合

「Windows XP セットアップ」(→ P.22) に進んでください。

Windows 7 セットアップ

- 1 AC アダプタを接続し、本パソコンの電源を入れます(→ P.19)。

しばらくすると、「Windows のセットアップ」画面が表示されます。
- 2 ユーザー名を入力し、「次へ」をクリックします。

👉 重要

- ▶ ユーザー名は12文字以内の半角英数字(a～z、A～Z、0～9)で入力してください。@ や % などの記号は入力しないでください。

半角英数字(a～z、A～Z、0～9)で入力しないと、パソコンが正常に動作しなくなる可能性があります。
- ▶ 数字を使用する場合は、英字と組み合わせてください。
- ▶ コンピューター名を変更する場合は、セットアップ終了後に変更してください。

「ユーザーアカウントのパスワードを設定します」と表示されます。

- 3 パスワード、パスワードのヒントを入力し、「次へ」をクリックします。

重要

- ▶ パスワードは半角英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) で入力してください。@ や % などの記号は入力しないでください。
半角英数字 (a ~ z, A ~ Z, 0 ~ 9) で入力しないと、パソコンが正常に動作しなくなる可能性があります。
- ▶ パスワードでは大文字、小文字が区別されます。

「ライセンス条項をお読みにってください」と表示されます。

- 4 「ライセンス条項」をよく読み、2ヶ所の「ライセンス条項に同意します」にチェックを付けて、「次へ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「ライセンス条項」は、本パソコンにあらかじめインストールされている Windows、および本パソコンを使用するうえでの契約を記述したものです。

「コンピューターの保護と Windows の機能の向上が自動的に行われるように設定してください」と表示されます。

- 5 「推奨設定を使用します」をクリックします。
しばらくすると、「ハードディスク領域変更ツール」画面が表示されます。

POINT

- ▶ 「リカバリ」(→ P.31) を行った後のセットアップの場合、「ハードディスク領域変更ツール」画面は表示されません。手順 9 へ進んでください。

- 6 ハードディスクの領域を変更する場合は、「領域設定を変更する」をクリックします。
「どちらかを選択してください。」と表示されます。

POINT

- ▶ 領域設定を変更しない場合は、「変更しない」をクリックし、手順 9 へ進んでください。

- 7 ハードディスクの領域の割合を変更する方法を選択し、「実行」をクリックします。

■ 2 区画のまま割合を変更する場合

スライダーを画面上で左右にドラッグして、C ドライブと D ドライブの領域の割合を変更してください。変更が可能な領域は、スライダーが動かせる範囲です。

POINT

- ▶ ドライブの最小サイズは、C ドライブが 30GB、D ドライブが約 1GB です。

■ 1 区画にする場合

C ドライブのみとなり、D ドライブは作成されません。

「設定の確認」画面が表示されます。

- 8 設定を確認し、「はい」をクリックします。

そのまましばらくお待ちください。

「必ず実行してください」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ 画面右下の通知領域に警告が表示される場合があります。これは、ウイルス対策ソフトをインストールし、パターンファイルを最新の状態にすることで表示されなくなります。
ウイルス対策ソフトのインストールは、「必ず実行してください」を実行してセットアップを完了させた後で、「セットアップ後」(→ P.23) をご覧になり行ってください。

- 9 「必ず実行してください」ウィンドウの内容を確認し、「実行する」をクリックします。

重要

- ▶ 「必ず実行してください」を行わないと、セットアップの最終設定が行われません。必ず手順どおりに実行してください。
- ▶ 「必ず実行してください」の実行前に「復元ポイントの作成」を行わないようにしてください。

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。

10 「はい」をクリックします。

重要

- ▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「はい」をクリックしてください。
- ▶ 再起動メッセージが表示されるまでの間は、キーボードやポインティングデバイスを操作しないでください。

最終設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

11 「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動し、パスワードの入力画面が表示されます。

12 手順3 で入力したパスワードを入力し、「→」をクリックします。

Windows が起動します。

これで、Windows セットアップが完了しました。

この後は、「セットアップ後」(→ P.23) をご覧になり、必要な操作を行ってください。

Windows XP セットアップ

1 AC アダプタを接続し、本パソコンの電源を入れます(→ P.19)。

しばらくすると、「Microsoft Windows へようこそ」画面が表示されます。

2 「次へ」をクリックします。

「使用許諾契約」画面が表示されます。

「使用許諾契約書」は、本パソコンにあらかじめインストールされているWindowsを使用するうえでの契約を記述したものです。

3 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

「コンピュータを保護してください」と表示されます。

POINT

- ▶ 「同意しません」を選択した場合は、「次へ」をクリックした後、メッセージに従って操作してください。

4 「自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます」をクリックし、「次へ」をクリックします。

「コンピュータに名前を付けてください」と表示されます。

5 「このコンピュータの名前」と「コンピュータの説明」を入力し、「次へ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「コンピュータの説明」は省略できます。
また、コンピュータの名前や説明は、セットアップ終了後にあらためて設定することもできます。

「管理者パスワードを設定してください」と表示されます。

6 「管理者パスワード」と「パスワードの確認入力」にパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

POINT

- ▶ パスワードでは大文字、小文字が区別されます。
- ▶ 「設定が完了しました」と表示された場合は、手順 10 へ進んでください。

「このコンピュータをドメインに参加させますか?」と表示されます。

7 「いいえ、このコンピュータをドメインのメンバにしません」をクリックし、「次へ」をクリックします。

「インターネット接続を確認しています」と表示されます。しばらくすると、「インターネットに接続する方法を指定してください。」と表示されます。

POINT

- ▶ 「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか?」と表示された場合は、手順 9 へ進んでください。

8 「省略」をクリックします。

「Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか?」と表示されます。

9 「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックし、「次へ」をクリックします。

「設定が完了しました」と表示されます。

10 「完了」をクリックします。

本パソコンの再起動後、パスワード入力画面が表示されます。

- 11** 手順 6 で入力したパスワードを入力し、「→」をクリックします。

POINT

- ▶ 画面右下の通知領域に警告が表示される場合があります。これは、ウイルス対策ソフトをインストールし、パターンファイルを最新の状態にすることで表示されなくなります。

ウイルス対策ソフトのインストールは、「必ず実行してください」を実行してセットアップを完了させた後で、「セットアップ後」(→ P.23) をご覧になり行ってください。

- 12** デスクトップの「必ず実行してください」アイコンをダブルクリックします。

重要

- ▶ 「必ず実行してください」を行わないと、セットアップの最終設定が行われません。必ず手順どおりに実行してください。
- ▶ 「必ず実行してください」の実行前に「復元ポイントの作成」を行わないようにしてください。

「このコンピューターに最適な設定を行います」ウィンドウが表示されます。

- 13** 「実行する」をクリックします。

重要

- ▶ 最終設定を正しく行うために、必ず「実行する」をクリックしてください。
- ▶ 再起動メッセージが表示されるまでの間は、キーボードやポインティングデバイス进行操作しないでください。

最終設定が行われ、再起動メッセージが表示されます。

- 14** 「OK」をクリックします。

本パソコンが再起動し、パスワードの入力画面が表示されます。

- 15** 手順 6 で入力したパスワードを入力し、「→」をクリックします。

Windows が起動します。

これで、Windows セットアップが完了しました。
この後は、「セットアップ後」(→ P.23) をご覧になり、必要な操作を行ってください。

セットアップ後

セットアップが終わったら、パソコンを使い始める前に、次の操作を行ってください。

■ディスクの作成

本パソコンのハードディスクには、「Windows RE + リカバリ領域」または「リカバリ領域」が用意されています。

パソコンにトラブルが起こったときは、「Windows RE + リカバリ領域」または「リカバリ領域」に保存されているデータを使って、C ドライブをご購入時の状態に戻すことができます。この「Windows RE + リカバリ領域」または「リカバリ領域」にトラブルがあった場合に備えて、データをコピーした「リカバリデータディスク」を作成しておくことをお勧めします。

また、ソフトウェアのインストールに使用する「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」や、DVD 再生ソフトを格納している「WinDVD ディスク」も作成することをお勧めします。

それぞれのディスクの作成については、次の項目をご覧ください。

- ・「ドライバーズディスクを作成する」(→ P.26)
- ・「リカバリデータディスクを作成する」(→ P.28)

POINT

- ▶ 「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」、「WinDVD ディスク」、「リカバリデータディスク」は、ご購入時に添付されています。お手元がない場合は、作成してください。

■セキュリティ対策

ウイルス対策や不正アクセスに関する対策など、お使いのパソコンについてのセキュリティ対策は、お客様自身が責任をもって行ってください。

初めてインターネットに接続する場合は、LAN に接続してインターネットを始める前に、次のセキュリティ対策を行ってください。

1. LAN などの設定を行います。
2. 「Windows Update」を実行し、Windows をより安全な状態に更新します。
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックし、必要な更新をインストールします。

3. Office 製品をお使いの場合は、更新をしてください。

・ Windows 7 の場合

「Windows Update」ウィンドウの「他の製品の更新プログラムを取得します」をクリックすると、Windows や Office 製品などのマイクロソフト社が提供するソフトウェアの更新プログラムを入手できます。

・ Windows XP の場合

「Windows Update」のホームページにある「Office のアップデート」を実行し、より安全な状態に更新します。

4. ウイルス対策ソフトをインストールし、ウイルス対策のデータファイルを最新にします。ウイルス対策ソフト「Norton AntiVirus」については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「セキュリティ」－「コンピューターウイルス」－「コンピューターウイルス対策」をご覧ください。

なお、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧になるためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。

■ソフトウェア

- DVD を再生するには、「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」をインストールする必要があります。WinDVD ディスクがお手元にない場合は、「ドライバーズディスクを作成する」(→ P.26) をご覧になり、作成してください。インストール方法については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「ソフトウェア」－「インストール」をご覧ください。
- 必要に応じて、ソフトウェアの追加や削除を行うことができます。ソフトウェアについては、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「ソフトウェア」－「インストール」をご覧ください。

その他の設定についてはインターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。

電源を切る

注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切った後、すぐに電源を入れしないでください。再度電源を入れる場合は、10 秒以上待ってから電源を入れてください。
- 本パソコンの電源を切る場合は、あらかじめディスクを取り出してください。
- 電源を切るとき、ノイズが発生することがあります。その場合は、音量を下げてお使いください。
- 液晶ディスプレイは静かに閉じてください。閉じるときに液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。

電源の切り方 (Windows 7 の場合)

1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。

Windows が終了し、本パソコンの電源が切れます。また、電源ランプ (→ P.19) が消えます。

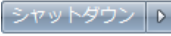
POINT

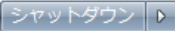
▶ 手順 1 の操作で電源が切れない場合、次の手順で電源を切ってください。

1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
2. 画面右下にある  をクリックし、Windows を終了します。

それでも電源が切れない場合は、電源ボタンを 4 秒以上押し続けてください。

ただし、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ると、ハードディスクを破壊するおそれがあります。緊急の場合以外は行わないでください。

▶ 「スタート」ボタン→  の  → 「再起動」を選択すると、本パソコンを再起動できます。ソフトウェアをインストールした場合や、使用中のソフトウェアがなんらかの理由で動かなくなった場合などに再起動を行います。

- ▶ 「スタート」ボタン→の→「スリープ」または「休止状態」を選択すると、本パソコンが省電力状態になります。
- パソコンを使用しない場合は、電源を切らずにスリープにしておくと、次にパソコンを使うときにすぐに使い始めることができます。詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「取り扱い」－「スリープ／休止状態（Windows 7 の場合）」をご覧ください。
- ▶ パソコンは電源を切った状態でも少量の電力を消費しているため、AC アダプタを取り外した状態ではバッテリーの残量が少しずつ減っていきます。バッテリーの残量を減らさないためには、AC アダプタを接続しておいてください。
- なお、長期間パソコンを使用しない場合には、AC アダプタやバッテリーパックを取り外してください。お使いになる前にはバッテリーパックを取り付け、AC アダプタを接続してから電源を入れてください。
- 詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「取り扱い」－「バッテリー」をご覧ください。

電源の切り方（Windows XP の場合）

- 1 「スタート」ボタン→「終了オプション」→「電源を切る」の順にクリックします。
- Windows が終了し、本パソコンの電源が切れます。また、電源ランプ（→ P.19）が消えます。

POINT

- ▶ 手順 1 の操作で電源が切れない場合、次の手順で電源を切ってください。
 1. 【Ctrl】＋【Alt】＋【Delete】キーを押します。
 2. Windows を終了します。

表示されるウィンドウによって手順が異なります。

 - 「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合

「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
 - 「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合
 1. 「シャットダウン」をクリックします。
 - 「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。
 2. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。

それでも電源が切れない場合は、電源ボタンを 4 秒以上押ししてください。

ただし、電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ると、ハードディスクを破壊するおそれがあります。緊急の場合以外は行わないでください。

- ▶ 手順 1 で、「再起動」を選択すると、本パソコンを再起動できます。ソフトウェアをインストールした場合や、使用中のソフトウェアがなんらかの理由で動かなくなった場合などに再起動を行います。
- ▶ 手順 1 で、「スタンバイ」または「休止状態」を選択すると、本パソコンが省電力状態になります。
- パソコンを使用しない場合は、電源を切らずにスタンバイにしておくと、次にパソコンを使うときにすぐに使い始めることができます。詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「取り扱い」－「スタンバイ／休止状態（Windows XP の場合）」をご覧ください。
- ▶ パソコンは電源を切った状態でも少量の電力を消費しているため、AC アダプタを取り外した状態ではバッテリーの残量が少しずつ減っていきます。バッテリーの残量を減らさないためには、AC アダプタを接続しておいてください。
- なお、長期間パソコンを使用しない場合には、AC アダプタやバッテリーパックを取り外してください。お使いになる前にはバッテリーパックを取り付け、AC アダプタを接続してから電源を入れてください。
- 詳しくは、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「取り扱い」－「バッテリー」をご覧ください。

2. 必要に応じてお読みください

BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

BIOS セットアップの設定値を、本パソコンご購入時の状態に戻す方法について説明します。

- 1 本パソコンを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F2】キーを押します。
BIOS セットアップが起動します。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴや Windows 起動時のロゴ表示が確認できない場合があります。その場合は、本パソコンを再起動し、【F2】キーを数回押してください。
 - ▶ 「Supervisor Password」（管理者用パスワード）を設定している場合、「Enter Password」というメッセージが表示されます。管理者用パスワードを入力してください。
- 2 「Exit（終了）」メニューの「Load Setup Defaults（標準設定値を読み込む）」を実行した後、設定を保存して BIOS セットアップを終了します。

重要

- ▶ 次の項目は、「Load Setup Defaults」を実行しても、現在お使いの状態のまま変更されません。
 - ・ Set Supervisor Password（管理者用パスワード）
 - ・ Set User Password（ユーザー用パスワード）
 - ・ Set Drive0 HDD Password（ドライブ 0 用パスワード設定）

ドライバーズディスクを作成する

本パソコンにトラブルがあった場合に備えて、またはご購入時にインストールされていないソフトウェアを使用する場合に、次のディスクが必要になります。

ここでは、次のディスクの作成方法について説明します。

- トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]
添付のソフトウェアをインストールする場合またはハードディスクをご購入時の状態に戻す場合に使用します。

- WinDVD ディスク

DVD 再生ソフト「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」が格納されています。DVD を再生するときに必要なソフトウェアです。

作成したディスクは、修理を依頼する場合も必要となります。ご購入後できるだけ早く作成しておくことをお勧めします。

POINT

- ▶ 「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」、「WinDVD ディスク」は、ご購入時に添付されています。お手元にはない場合は、作成してください。

ドライバーズディスクの作成前の準備

「トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」、「WinDVD ディスク」を作成する前に、次の準備を行ってください。

■型名を確認する

作成したディスクのレーベル面に記入します。あらかじめ、保証書などで本パソコンの型名を確認してください。

■AC アダプタを接続する

「ドライバーズディスク」を作成するときには、必ず AC アダプタを接続してください。

■ディスクを用意する

●お使いになれるディスク

DVD-R (4.7GB) が必要です。その他のディスクはお使いになれません。

●推奨ディスク

インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「取り扱い」－「推奨ディスク」をご覧ください。

●必要なディスクの枚数

必要なディスクの枚数は、「ドライバースディスク作成」の手順3 (→ P.27) で確認できます。

ドライバースディスク作成

重要

- ▶ Windows XP の場合は、必ず管理者権限をもったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ドライバースディスク作成」の順にクリックします。

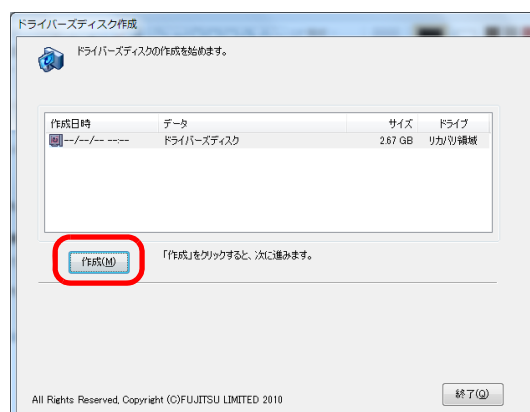
POINT

- ▶ Windows 7 の場合

「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。

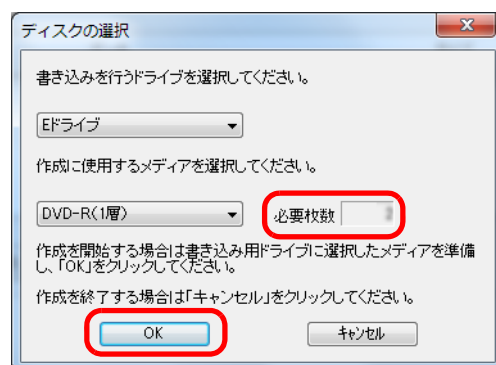
「ドライバースディスク作成」ウィンドウが表示されます。

- 2 「作成」をクリックします。



「ディスクの選択」ウィンドウが表示されます。

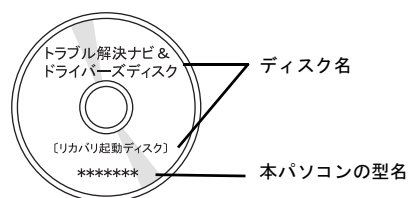
- 3 ディスクの必要枚数を確認し、「OK」をクリックします。



「ドライバースディスクの作成を開始しますか?」というメッセージが表示されます。

- 4 未使用のディスクのレーベル面にディスクの名前などを記入します。

- トラブル解決ナビ&ドライバースディスク [リカバリ起動ディスク] のレーベル面の記入例



POINT

- ▶ レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆など、先の硬いものを使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

- 5 手順4で名前を記入したディスクをセットします。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウ、または「Windows が実行する動作を選んでください」と表示された場合は、ウィンドウを閉じてください。

- 6 「はい」をクリックします。

ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。

POINT

- ▶ 「未使用のディスクをセットしてから「OK」をクリックしてください。」と表示された場合は、未使用のディスクがセットされていることを確認し「OK」をクリックしてください。

- 7 「ディスクへの書き込みが終了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。

POINT

▶ 書き込みエラーが表示された場合

「ドライバースディスクの作成に失敗しました。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックしてください。「ドライバースディスク作成」ウィンドウに戻ります。

ディスクの不良が考えられますので、新しいディスクを用意し、手順 2 から操作し直してください。

■ 「WinDVD ディスクの作成を開始しますか？」というメッセージが表示された場合

手順 4 (→ P.27) をご覧になり、レーベル面にディスクの名前「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」と記入します。

「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」と記入したディスクをセットし、手順 6 ～手順 7 を繰り返してください。

「ディスクの作成が終了しました。」というメッセージが表示されます。

- 8 ディスクを取り出し、「OK」をクリックします。

- 9 「終了」をクリックします。

以上でディスクの作成は終了です。

作成したディスクは、大切に保管してください。

リカバリデータディスクを作成する

「Windows RE +リカバリ領域」、または「リカバリ領域」にトラブルがあった場合に備えて、「リカバリデータディスク」を作成しておくことで安心です。

リカバリデータディスクは、修理を依頼する場合も必要となります。ご購入後、できるだけ早く作成しておくことをお勧めします。

POINT

- ▶ リカバリデータディスクは、ご購入時に添付されています。お手元にリカバリデータディスクがない場合は、作成してください。

リカバリ領域とは

ご購入時のハードディスクは、4 つの領域に設定されています。

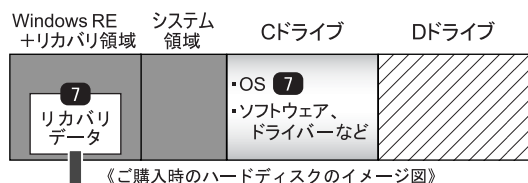
パソコンにトラブルが起こったときは、「Windows RE +リカバリ領域」または「リカバリ領域」に保存されているリカバリデータを使って、C ドライブをご購入時の状態に戻すことができます。

しかしハードディスクのトラブルなどで「Windows RE +リカバリ領域」または「リカバリ領域」のデータを読み出せなくなると、C ドライブをご購入時の状態に戻すことができなくなります。

そこで、「Windows RE +リカバリ領域」、または「リカバリ領域」のデータから「リカバリデータディスク」を作成しておくことをお勧めします。

■Windows 7 モデル

「Windows RE + リカバリ領域」にある Windows 7 のリカバリデータから「リカバリデータディスク」を作成します。



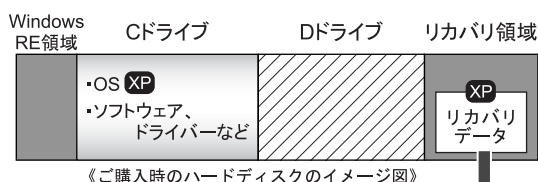
■ : Windowsからは見えない領域です。

7 : Windows 7

- ・ Windows RE + リカバリ領域
: ハードウェア診断プログラムなどのシステム
Windows 7 のリカバリデータなど
- ・ システム領域 : Windows 7 のシステム
- ・ C ドライブ : Windows 7

■Windows XP モデル

「リカバリ領域」にある Windows XP のリカバリデータから「リカバリデータディスク」を作成します。



■ : Windowsからは見えない領域です。

XP : Windows XP

- ・ Windows RE 領域 : ハードウェア診断プログラムなどのシステム
- ・ C ドライブ : Windows XP
- ・ リカバリ領域 : Windows XP のリカバリデータなど

リカバリデータディスク作成前の準備

「リカバリデータディスク」を作成する前に、次の準備を行ってください。

■型名を確認する

作成したディスクのレーベル面に記入します。あらかじめ、保証書などで本パソコンの型名を確認してください。

■AC アダプタを接続する

「リカバリデータディスク」を作成するときには、必ず AC アダプタを接続してください。

■ディスクを用意する

- お使いになれるディスク
DVD-R (4.7GB) が必要です。その他のディスクはお使いになれません。
- 推奨ディスク
インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「取り扱い」－「推奨ディスク」をご覧ください。
- 必要なディスクの枚数
「Windows RE + リカバリ領域」または「リカバリ領域」の容量によって異なります。
必要なディスクの枚数は、「リカバリデータディスク作成」の手順 3 (→ P.30) で確認できます。

リカバリデータディスク作成

✎ 重要

- ▶ Windows XP の場合は、必ず管理者権限をもったユーザーとしてログオンしてください。

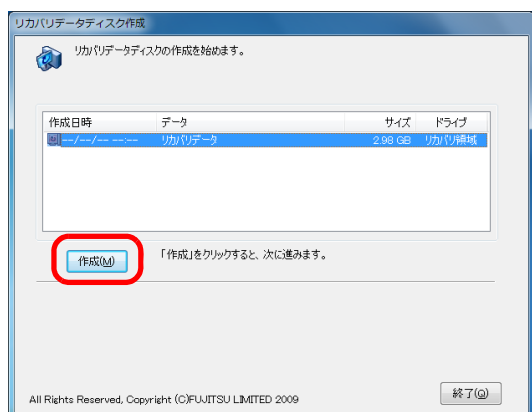
- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「リカバリデータディスク作成」の順にクリックします。

🔍 POINT

- ▶ Windows 7 の場合
「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、「はい」をクリックします。

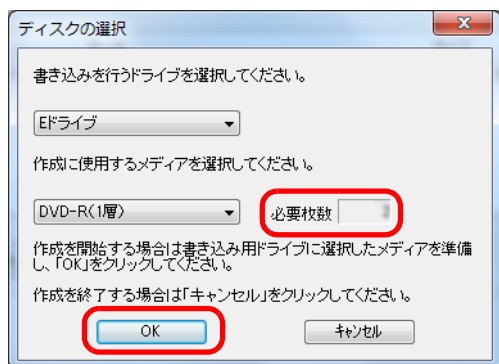
「リカバリデータディスク作成」ウィンドウが表示されます。

2 「作成」をクリックします。



「ディスクの選択」ウィンドウが表示されます。

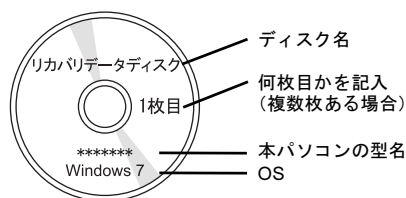
3 ディスクの必要枚数を確認し、「OK」をクリックします。



「リカバリデータディスク 1 枚目の作成を開始しますか？」というメッセージが表示されます。

4 未使用のディスクのレーベル面にディスクの名前などを記入します。

■ リカバリデータディスクのレーベル面の記入例



POINT

- ▶ レーベル面に記入するときは、ボールペンや鉛筆など、先の硬いものを使わないでください。ディスクに傷が付くおそれがあります。

5 手順4で名前を記入したディスクをセットします。

POINT

- ▶ 「自動再生」ウィンドウ、または「Windows が実行する動作を選んでください」と表示された場合は、ウィンドウを閉じてください。

6 「はい」をクリックします。

ディスクへの書き込みが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。

POINT

- ▶ 「未使用のディスクをセットしてから「OK」をクリックしてください。」と表示された場合は、未使用のディスクがセットされていることを確認し「OK」をクリックしてください。

7 「ディスクへの書き込みが終了しました」と表示されたら、「OK」をクリックします。

- 複数枚の「リカバリデータディスク」を作成する場合
1 枚目の書き込みが完了したら、続けて次のディスクを作成します。手順4～手順6を枚数分繰り返してください。

POINT

- ▶ 書き込みエラーが表示された場合
「リカバリデータディスクの作成に失敗しました。」というメッセージが表示されたら、「OK」をクリックしてください。「リカバリデータディスク作成」ウィンドウに戻ります。
ディスクの不良が考えられますので、新しいディスクを用意し、手順2から操作し直してください。
なお、複数枚のディスクを作成している途中でエラーが出た場合、途中から作成できます。
手順6で、作成し直したいディスクの番号(n)が表示されるまで「いいえ」をクリックして、ディスクの作成を続けてください。

「リカバリデータディスクの作成が終了しました。」というメッセージが表示されます。

8 ディスクを取り出し、「OK」をクリックします。

9 「終了」をクリックします。

以上で「リカバリデータディスク」の作成は終了です。作成した「リカバリデータディスク」は、大切に保管してください。

リカバリ

Windows が起動しないなどの問題が発生した場合、リカバリを行います。

リカバリとは、C ドライブの OS、ドライバーなどのプレイインストールソフトウェアをご購入時の状態に戻す操作です。

重要

- ▶ Windows 7 のハードディスクの領域は、Windows XP の領域と設定が異なります。そのため、Windows XP モデルで、C ドライブを Windows 7 にリカバリすることはできません。

OS を変更したい場合は、領域設定の変更が必要です。操作方法は、「OS を Windows 7 に変更する (Windows XP モデルの場合)」(→ P.40) をご覧ください。

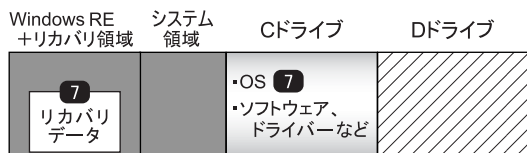
ご使用時のハードディスクの状態

ご使用時のハードディスクは、4 つの領域に設定されています。

■ご使用時のハードディスクのイメージ図

□Windows 7 モデル

「Windows RE + リカバリ領域」、「システム領域」、「C ドライブ」、「D ドライブ」、の 4 つの領域に設定されています。



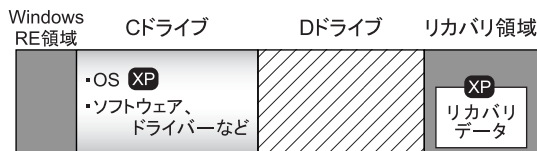
■ : Windowsからは見えない領域です。

7 : Windows 7

- Windows RE + リカバリ領域 : ハードウェア診断プログラムなどのシステム
Windows 7 のリカバリデータなど
- システム領域 : Windows 7 のシステム
- C ドライブ : Windows 7

□Windows XP モデル

「Windows RE 領域」、「C ドライブ」、「D ドライブ」、「リカバリ領域」の 4 つの領域に設定されています。



■ : Windowsからは見えない領域です。

XP : Windows XP

- Windows RE 領域 : ハードウェア診断プログラムなどのシステム
- C ドライブ : Windows XP
- リカバリ領域 : Windows XP のリカバリデータなど

リカバリの考え方

ハードディスクの領域は現在お使いの状態のまま、C ドライブのみご購入時の状態に戻します。C ドライブ以外のデータは変更されません。

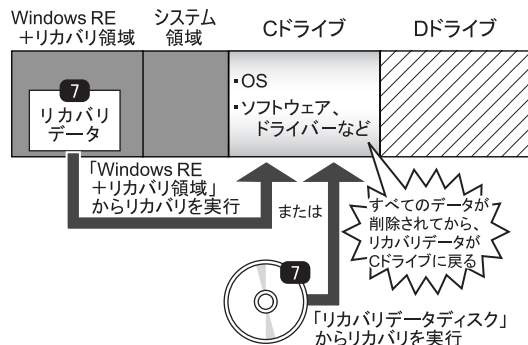
重要

- ▶ リカバリを行うと、C ドライブのすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

■リカバリのイメージ図

□Windows 7 モデル

「Windows RE + リカバリ領域」または「リカバリデータディスク」のリカバリデータを C ドライブに戻します。



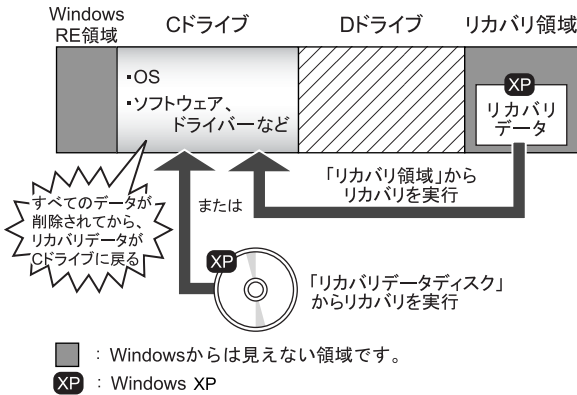
■ : Windowsからは見えない領域です。

7 : Windows 7

□ Windows XP モデル

● Windows XP にする場合

「リカバリデータディスク」のリカバリデータを C ドライブに戻します。



● Windows 7 にする場合

ハードディスクの領域設定が異なるため、リカバリはできません。OS を Windows 7 にする場合は、「OS を Windows 7 に変更する（Windows XP モデルの場合）」（→ P.40）をご覧ください。

注意事項

- トラブル解決ナビの「領域設定」以外でドライブ構成を変更している場合は、リカバリを実行できません。
また、ダイナミックディスクや拡張パーティションなどを作成した場合もリカバリを実行できません。
その場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻してください。
ハードディスクをご購入時の状態に戻す方法については、「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」（→ P.37）をご覧ください。
- リカバリを行うと、C ドライブのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- パソコン本体に USB メモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなどを接続している場合は、必ず取り外してください。
また、その他の周辺機器を取り付けている場合も、取り外してからリカバリを実行してください。
- リカバリを実行し Windows のセットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。
- バリューシリーズで選択したソフトウェアはリカバリでは元に戻りません。
リカバリが終了してからインストールしてください。
- 本書ではキーボードおよびポインティングデバイスでの操作を前提に記述してあります。
- リカバリには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

リカバリを実行する

本パソコンの C ドライブを、ご購入時の状態に戻すリカバリの方法を説明します。

POINT

- ▶ リカバリに関する注意事項 (→ P.32) をよくお読みのうえ、リカバリを行ってください。

リカバリ前の準備

リカバリを実行する前に、次の準備を行ってください。

■AC アダプタを接続する

リカバリを実行するときには、必ず AC アダプタを接続してください。

■BIOS 設定を購入時の状態に戻す

BIOS の設定をご購入時の状態に戻します (→ P.26)。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定にしていると、エラーメッセージが表示されることがあります。

■必要に応じてディスクを用意する

●リカバリデータディスク

ご購入時にインストールされている OS のリカバリデータディスクをご用意ください。

リカバリデータディスクからリカバリを行う場合必要です。

リカバリ方法

重要

- ▶ C ドライブのすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

- 1 本パソコンを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
「Boot Menu」が表示されます。

POINT

- ▶ 「Boot Menu」が表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。

- 2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「Recovery and Utility」を選択し、【Enter】キーを押します。
そのまましばらくお待ちください。
「システム回復オプション」が表示されます。

POINT

- ▶ 「システム回復オプション」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

- 3 「Microsoft IME」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
オペレーティングシステムを選択する画面が表示されます。

4 次の操作を行います。

■ Windows 7 の場合

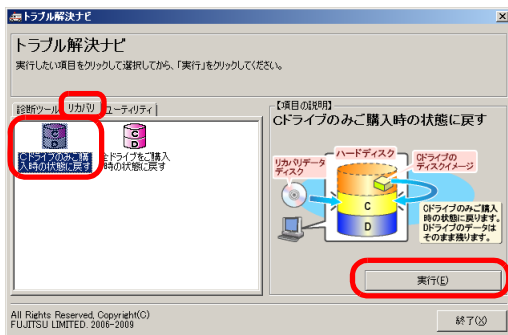
1. 「Windows の起動に伴う問題の修復用の回復ツールを使用します」を選択し、「次へ」をクリックします。
ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。
2. お使いのパソコンで設定しているユーザー名を選択してパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
パスワードを設定していない場合は、何も入力せず「OK」をクリックします。

■ Windows XP の場合

1. 「Windows の起動に伴う問題の修復用の回復ツールを使用します」を選択し、「次へ」をクリックします。

- 5 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「トラブル解決ナビ」をクリックします。
「トラブル解決ナビ」が表示されます。

- 6 「リカバリ」タブの「C ドライブのみご購入時の状態に戻す」を選択し、「実行」をクリックします。

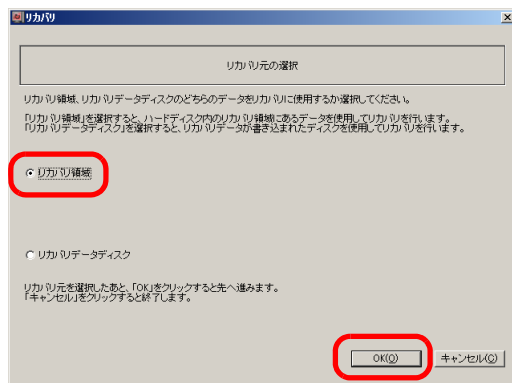


(画面は Windows 7 モデルの例です)

「ご使用上の注意」が表示されます。

- 7 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「リカバリ元の選択」画面が表示されます。

- 8 「リカバリ領域」をクリックし、「OK」をクリックします。



POINT

- ▶ リカバリデータディスクを使用する場合
「リカバリデータディスク」をクリックし、「OK」をクリックしてください。その後は、表示されるメッセージに従って操作してください。
「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されたら、「リカバリデータディスク」を取り出し、手順 10 に進んでください。

「警告」画面が表示されます。

- 9 「OK」をクリックします。
「リカバリ」画面が表示され、リカバリが始まります。
リカバリが終了すると、「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されます。

- 10 「完了」をクリックします。
本パソコンの電源が自動的に切れます。

- 11 30 秒以上待ってから電源を入れます。

- 12 セットアップを行います。
詳しくは「セットアップ」(→ P.20) をご覧ください。

以上でリカバリは終了です。

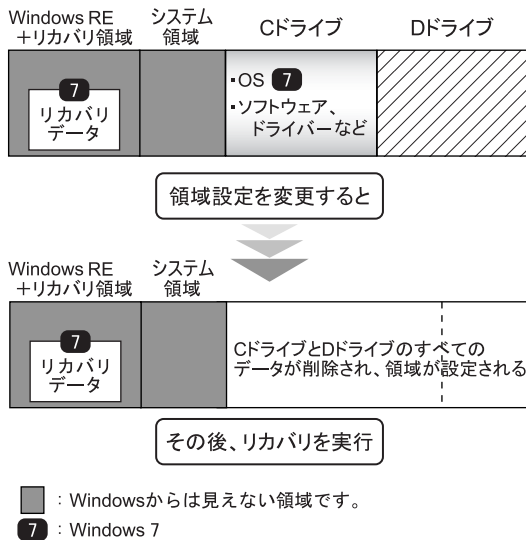
領域設定の変更

ハードディスクの C ドライブと D ドライブの領域を変更したり、1 区画にしたりできます。

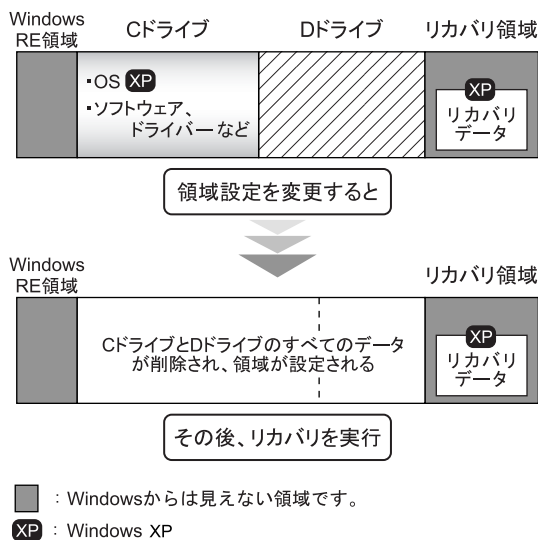
領域設定の考え方

■ 領域設定変更のイメージ図

□ Windows 7 モデル



□ Windows XP モデル



注意事項

- 領域設定の変更を行うと、Windows から見える領域に保存されているすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。
「Windows RE + リカバリ領域」、「システム領域」、「Windows RE 領域」、「リカバリ領域」のデータは削除されません。
- トラブル解決ナビの「領域設定」以外でドライブ構成を変更している場合は、領域設定を変更できません。
また、ダイナミックディスクや拡張パーティションなどを作成した場合も領域設定を変更できません。
その場合は、ハードディスクをご購入時の状態に戻してください。
ハードディスクをご購入時の状態に戻す方法については、「ハードディスクをご購入時の状態に戻す」(→ P.37)をご覧ください。
- トラブル解決ナビの「領域設定」以外で、ドライブ構成を変更する場合、「Windows RE 領域」は削除しないでください。
- パソコン本体に USB メモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなどを接続している場合は、必ず取り外してください。
また、その他の周辺機器を取り付けている場合も、取り外してから領域設定の変更を行ってください。

領域設定を変更する前の準備

領域設定を変更する前に、次の準備を行ってください。

■ AC アダプタを接続する

領域設定を変更するときには、必ず AC アダプタを接続してください。

領域設定を変更する

- 1 本パソコンを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
「Boot Menu」が表示されます。

POINT

- ▶ 「Boot Menu」が表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。

- 2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「Recovery and Utility」を選択し、【Enter】キーを押します。
そのまましばらくお待ちください。
「システム回復オプション」が表示されます。

POINT

- ▶ 「システム回復オプション」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

- 3 「Microsoft IME」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
オペレーティングシステムを選択する画面が表示されます。

- 4 次の操作を行います。

■ Windows 7 の場合

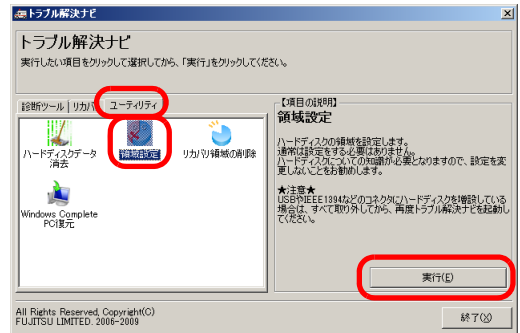
1. 「Windows の起動に伴う問題の修復用の回復ツールを使用します」を選択し、「次へ」をクリックします。
ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。
2. お使いのパソコンで設定しているユーザー名を選択してパスワードを入力し、「OK」をクリックします。
パスワードを設定していない場合は、何も入力せず「OK」をクリックします。

■ Windows XP の場合

1. 「Windows の起動に伴う問題の修復用の回復ツールを使用します」を選択し、「次へ」をクリックします。

- 5 「回復ツールを選択してください」と表示されたら、「トラブル解決ナビ」をクリックします。
「トラブル解決ナビ」が表示されます。

- 6 「ユーティリティ」タブの「領域設定」を選択し、「実行」をクリックします。

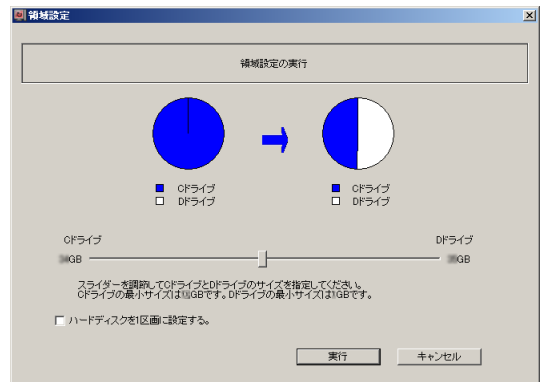


(画面は Windows 7 モデルの例です)

「ご使用上の注意」が表示されます。

- 7 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「領域設定の実行」画面が表示されます。

- 8 領域を設定します。



- C ドライブと D ドライブ (2 区画) を作成する場合
スライダを左右にドラッグして C ドライブと D ドライブの容量を指定します。領域は 1GB 単位で設定できます。添付のソフトウェアや市販のソフトウェアをインストールする場合は、C ドライブの容量を多めに指定してください。

POINT

- ▶ ドライブの最小サイズは、C ドライブが 30GB、D ドライブが約 1GB です。

- C ドライブのみ (1 区画) を作成する場合
「ハードディスクを 1 区画に設定する。」にチェックを付けます。

9 「実行」をクリックします。

確認画面が表示されます。

重要

- ▶ 領域設定を変更していなくても、「実行」をクリックすると Windows から見える領域に保存されているすべてのデータが削除されます。

10 「はい」をクリックします。

領域の設定が始まります。

領域の設定が完了すると、「領域設定の完了」画面が表示されます。

11 「完了」をクリックします。

「トラブル解決ナビ」が表示されます。

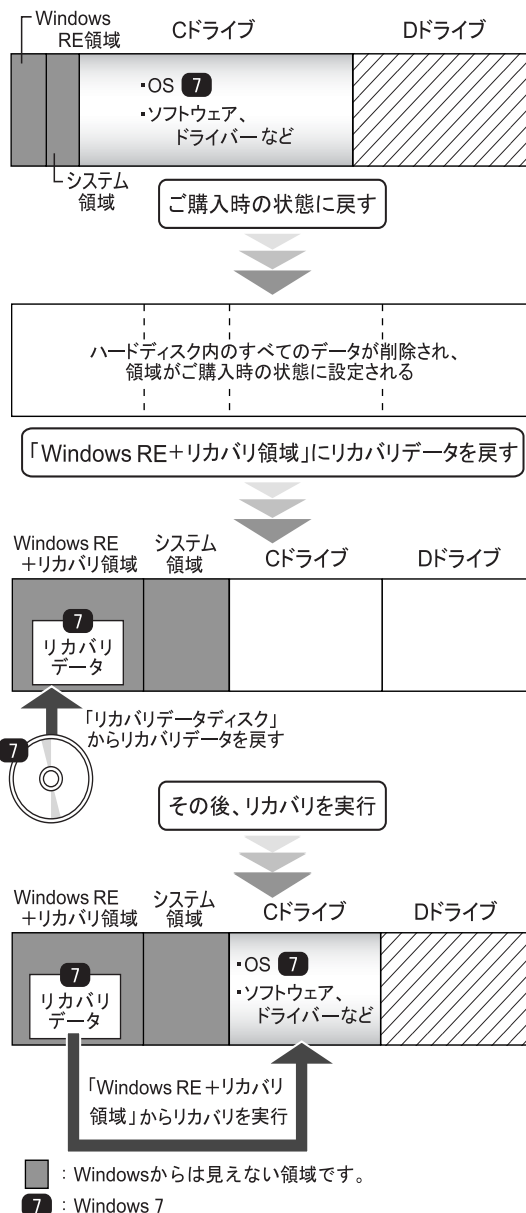
以上で領域設定の変更は終了です。

この後リカバリを行う場合は、「リカバリを実行する」(→ P.33) をご覧ください。

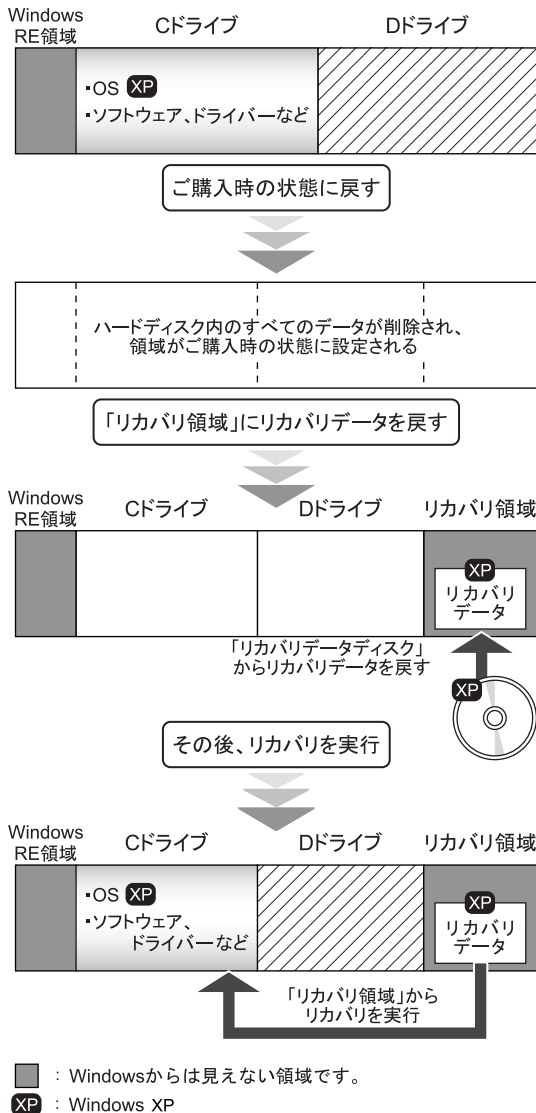
ハードディスクをご購入時の状態に戻す

リカバリ領域を消してしまった場合などに、ハードディスクをご購入時の状態に戻すことができます。

■ハードディスクをご購入時の状態に戻すイメージ図 □Windows 7 モデル



□ Windows XP モデル



注意事項

- ハードディスクをご購入時の状態に戻すと、ハードディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- パソコン本体に USB メモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなどを接続している場合は、必ず取り外してください。また、その他の周辺機器を取り付けている場合も、取り外してからハードディスクをご購入時の状態に戻してください。
- ハードディスクをご購入時の状態に戻し、Windows のセットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。
- バリューシリーズで選択したソフトウェアはハードディスクをご購入時の状態に戻しても元に戻りません。ハードディスクをご購入時の状態に戻した後、インストールしてください。
- 本書ではキーボードおよびポインティングデバイスでの操作を前提に記述してあります。
- ハードディスクをご購入時の状態に戻すには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

ハードディスクを ご購入時の状態に戻す前の準備

ハードディスクをご購入時の状態に戻す前に、次の準備を行ってください。

■AC アダプタを接続する

ハードディスクをご購入時の状態に戻すときには、必ず AC アダプタを接続してください。

■BIOS 設定を購入時の状態に戻す

BIOS の設定をご購入時の状態に戻します (→ P.26)。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定にしていると、エラーメッセージが表示されることがあります。

■ディスクを用意する

- トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]
- リカバリデータディスク
ご購入時にインストールされている OS のリカバリデータディスクをご用意ください。
- WinDVD ディスク
DVD 再生ソフト「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」が格納されています。

ハードディスクをご購入時の状態に戻す

重要

- ▶ ハードディスク内のすべてのデータが削除されます。あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

- 1 本パソコンを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
「Boot Menu」が表示されます。

POINT

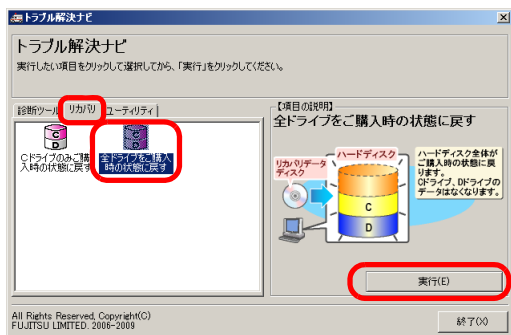
- ▶ 「Boot Menu」が表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。
- 2 「トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]」をセットします。

- 3 データの読み出しが終了し、CD/DVD ドライブが停止してから、【↑】キーまたは【↓】キーを押して「CD/DVD Drive」を選択し、【Enter】キーを押します。
そのまましばらくお待ちください。
「トラブル解決ナビ」が表示されます。

POINT

- ▶ 「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

- 4 「リカバリ」タブの「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を選択し、「実行」をクリックします。



(画面は Windows 7 モデルの例です)

「ご使用上の注意」が表示されます。

- 5 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

- 6 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. ディスクの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリ領域にリカバリデータを復元する
4. リカバリを実行する

の順に進めます。画面のメッセージで指定されたディスクをセットして、操作を進めてください。

「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されたら手順7に進んでください。

- 7 ディスクを取り出し、「完了」をクリックします。

本パソコンの電源が自動的に切れます。

- 8 30 秒以上待ってから電源を入れます。

- 9 セットアップを行います。

詳しくは、「セットアップ」(→ P.20) をご覧ください。

以上でご購入時の状態に戻す操作は終了です。

OS を Windows 7 に変更する (Windows XP モデルの場合)

注意事項

- OS を Windows 7 に変更すると、ハードディスクのすべてのデータが削除されます。必要に応じて事前にバックアップしてください。
- パソコン本体に USB メモリ、メモリーカード、外付けハードディスクなどを接続している場合は、必ず取り外してください。
- また、その他の周辺機器を取り付けている場合も、取り外してから OS を Windows 7 に変更してください。
- OS を Windows 7 に変更し、Windows のセットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。
- Windows 7 に変更しても、バリューシリーズで選択したソフトウェアはインストールされません。
- OS を Windows 7 に変更した後、インストールしてください。
- 本書ではキーボードおよびポインティングデバイスでの操作を前提に記述してあります。
- OS を Windows 7 に変更するには時間がかかります。時間に余裕をもって、操作してください。

OS を Windows 7 に変更する前の準備

OS を Windows 7 に変更する前に、次の準備を行ってください。

■ AC アダプタを接続する

OS を Windows 7 に変更するときには、必ず AC アダプタを接続してください。

■ BIOS 設定をご購入時の状態に戻す

BIOS の設定をご購入時の状態に戻します (→ P.26)。

POINT

- ▶ BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定にしていると、エラーメッセージが表示されることがあります。

■ ディスクを用意する

- トラブル解決ナビ & ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]
- Windows 7 のリカバリデータディスク
- WinDVD ディスク
- DVD 再生ソフト「InterVideo WinDVD® for FUJITSU」が格納されています。

OS を Windows 7 に変更する

重要

- ▶ ハードディスク内のすべてのデータが削除されます。
あらかじめ、必要なデータをバックアップしてください。

- 1 本パソコンを起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。
「Boot Menu」が表示されます。

POINT

- ▶ 「Boot Menu」が表示されず Windows が起動してしまった場合は、本パソコンを再起動してもう一度操作してください。

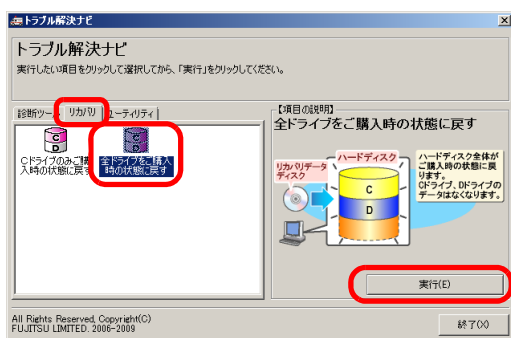
- 2 「トラブル解決ナビ&ドライバズディスク[リカバリ起動ディスク]」をセットします。

- 3 データの読み出しが終了し、CD/DVD ドライブが停止してから、【↑】キーまたは【↓】キーを押して「CD/DVD Drive」を選択し、【Enter】キーを押します。
そのまましばらくお待ちください。
「トラブル解決ナビ」が表示されます。

POINT

- ▶ 「トラブル解決ナビ」が表示されるまでの間、一時的に画面が真っ暗な状態になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。電源を切らずにそのままお待ちください。

- 4 「リカバリ」タブの「全ドライブをご購入時の状態に戻す」を選択し、「実行」をクリックします。



「ご使用上の注意」が表示されます。

- 5 「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

- 6 画面のメッセージに従って操作します。

この後は、

1. ディスクの確認
2. ハードディスクの領域を設定する
3. リカバリ領域にリカバリデータを復元する
4. リカバリを実行する

の順に進めます。画面のメッセージで指定されたディスクをセットして、操作を進めてください。

「リカバリが正常に完了しました。」というメッセージが表示されたら手順 8 に進んでください。

- 7 ディスクを取り出し、「完了」をクリックします。

本パソコンの電源が自動的に切れます。

- 8 30 秒以上待ってから電源を入れます。

- 9 セットアップを行います。

詳しくは、「セットアップ」(→ P.20)をご覧ください。

以上で OS を Windows 7 に変更する操作は終了です。

Windows Aeroを有効にする (Windows 7の場合)

Windows Aeroが無効になっている場合、次の手順で Windows Aero を有効にできます。

■Windows 7 の場合

- 1 デスクトップで右クリックし、「個人設定」をクリックします。

「個人設定」ウィンドウが表示されます。

- 2 Aero テーマにある「Windows 7」をクリックします。

デスクトップの背景が Aero テーマの「Windows 7」に変更され、Aero が有効になります。

廃棄・リサイクル

本製品（付属品を含む）を廃棄する場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

■本製品の廃棄について

●法人・企業のお客様へ

本製品の廃棄については、弊社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」(<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>) をご覧ください。

●個人のお客様へ

本製品を廃棄する場合は、お申し込みホームページ (<http://azby.fmworld.net/recycle/>) をご覧ください。

□ハードディスクのデータ消去

パソコン本体に内蔵されているハードディスクには、お客様の重要なデータ（作成したファイルや送受信したメールなど）が記録されています。パソコンを廃棄するときは、ハードディスク内のデータを完全に消去することをお勧めします。

ハードディスク内のデータ消去については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「セキュリティ」－「パソコン本体の廃棄・譲渡時の注意」をご覧ください。

■使用済みバッテリーの取り扱い

- ・リチウムイオン電池のバッテリーパック、バッテリーユニットは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
- ・使用済みバッテリーは、ショート防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
- ・バッテリーを火中に投げると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。

バッテリーの仕様については、インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「仕様一覧／技術情報」－「本体仕様」、またはバッテリーの取扱説明書をご覧ください。

●法人・企業のお客様へ

弊社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」(<http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html>) をご覧ください。

●個人のお客様へ

使用済みバッテリーは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクル BOX に入れてください。詳しくは、一般社団法人 JBRC のホームページ (<http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html>) をご覧ください。弊社は一般社団法人 JBRC に加盟し、リサイクルを実施しています。



このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

Li-ion

お問い合わせ先について

■お問い合わせの前に

あらかじめ次の項目について確認してください。

□品名／型名の確認

パソコン本体のラベルに記載されています。

品名	LIFEBOOKXXXXXX	品名 型名
型名	FMVXXXXXX	
MADE IN JAPAN		
富士通株式会社		

□修理を依頼する場合

●ディスクの用意

次のディスクを添付してください。

- ・トラブル解決ナビ&ドライバーズディスク [リカバリ起動ディスク]
- ・リカバリデータディスク
- ・WinDVD ディスク

■お問い合わせ先

次の連絡先へお問い合わせください。

こんなときには	こちらへ
添付品の欠品	ご購入元にご相談ください。
故障かなと思われたとき	インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「トラブルシューティング」をご覧ください。 それでも解決できない場合は、ご購入元にご相談いただくか、「富士通ハードウェア修理相談センター」までお問い合わせください。 <お問い合わせ先> 通話料無料：0120-422-297 受付時間：9：00～17：00（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く） 部品送付による修理の場合、良品部品をお届け後、窓口よりお届けの確認と不良部品の引取日程などについてご連絡いたします。あらかじめご了承ください。
添付のソフトウェアのお問い合わせ	インターネット上のマニュアル『製品ガイド』の「トラブルシューティング」－「お問い合わせ先」をご覧ください。
技術的なご質問・ご相談	インターネット上のマニュアル『製品ガイド』をご覧ください。それでも不明な点がございましたら「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。ご質問、ご相談についての回答は専門技術員からのコールバックとなります。 <お問い合わせ先> 通話料無料：0120-950-222 受付時間：9：00～17：00（土曜・日曜・祝日およびシステムメンテナンス日を除く）
富士通サプライ品のご購入	富士通サプライ品のご購入については、「富士通コワーコ株式会社」の「お客様総合センター」までお問い合わせください。 <お問い合わせ先> 通話料無料：0120-505-279 受付時間：9：00～17：30（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く） URL： http://jp.fujitsu.com/coworco/

- ・電話番号は、おかけ間違いのないよう、ご注意ください。
- ・「富士通ハードウェア修理相談センター」、および「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」は、ダイヤル後、音声ガイダンスに従い、ボタン操作を行ってください。お客様の相談内容によって、各窓口へご案内いたします。

■海外でのノートパソコンの修理について

お客様が海外滞在中に、万一富士通ノートパソコンが故障した場合、滞在先の国でもハードウェアの修理サービスを受けることができます。詳しくは、弊社の富士通製品情報ページ（<http://www.fimworld.net/biz/fmv/support/globalrepair/>）の「海外でのノートパソコンの修理について」をご覧ください。

■有償サービス「SupportDesk」のご案内

システムの導入支援からソフトウェアのQ&A、万一のハードウェアトラブル時の修理など、お客様のパソコンに関するビジネスライフをトータルにサポートするサービスをご用意しております。詳しくは、富士通ホームページ「製品サポート」をご覧ください。

URL：<http://jp.fujitsu.com/solutions/support/sdk/products/pc/>

LIFEBOOK
A530/AX

取扱説明書
B6FJ-4571-01-00

発行日 2010年5月
発行責任 富士通株式会社

Printed in China

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

